

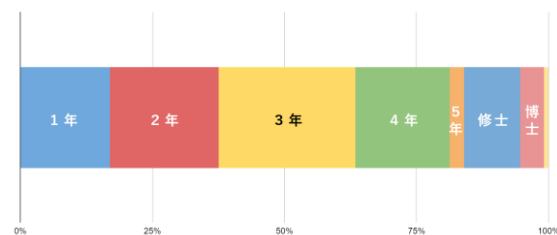
# 学生支援緊急給付金 採用実態に関するアンケート

2020年7月31日  
一律学費半額を求めるアクション

## ①アンケート概要

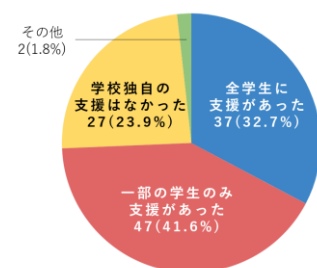
実施期間：2020年7月20日(月)～2020年7月25日(金)の5日間  
対象：高等教育機関に所属する学生  
47都道府県に住む学生113人が回答(学校数66)

## ②回答者の学年分布



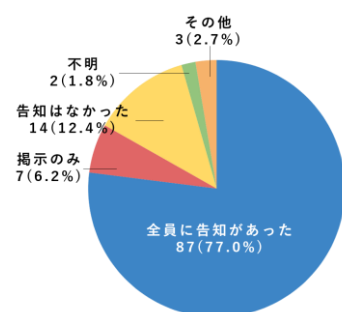
学部1年19人、2年23人、3年29人、4年20人、5年3人、6年回答なし、大学院修士課程12人、博士課程5人その他1人が回答

## ③学校独自の支援について



全学生に支援があったと答えた学生が3割強いた一方、一部の学生のみ支援があった、学校独自の支援はなかったと答えた学生が6割以上いた。全学生に支援があったと答えた学生の所属する学校でも、支援は数万円のみという学校が多く、学生に十分な支援がわたっていないということがわかっている。

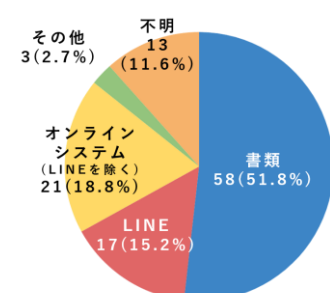
## ④学生支援緊急給付金の告知について



多くの学校では全員に告知があった。しかし、学内にプリント掲示されていただけの学校や学校のホームページに載っていただけの学校が一定数あることがわかっており、学校によって学生の認知度に差があるのではないかと考えられる。

“廊下にプリントが貼ってあるだけ。気付かない人もいます。”

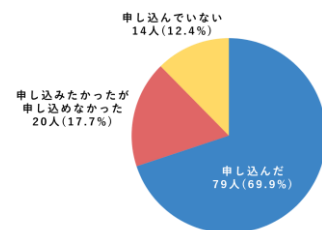
## ⑤申請方法について



書類での申請だったと答えた学生は51.8%おり、“申請書類が多く、私の大学では郵送だったため、印刷や郵便の手間やお金の負担は意外に大きかった。もらえるかどうか分からない状況で、時間もお金もない中、申請の作業をすることはつらかった。”という声が上がっており、手続きが煩雑で時間や金銭的な負担が大

かったことがわかる。LINEでの申請は簡素であったという意見が多くみられたが、中には“LINEで申請でき、手続きがとても簡素でよかった。その分エビデンスを偽造している学生も一定数いることも予想がつく。”という意見もあり、枠が少ない給付金における偽装を懸念する声も見られた。

## ⑥学生支援緊急給付金の申し込み状況



準備が間に合わなかった等の理由によって申し込みできなかったことがわかっている。

回答者の約7割は給付金に申請している。申し込んでいない学生が約3割いる計算となるが、申し込んでいない学生の中には申し込みたかったが申し込みできなかったという学生が17.7%いる。要件が厳しい、受給可能枠が狭い、申請期間が短く書類の

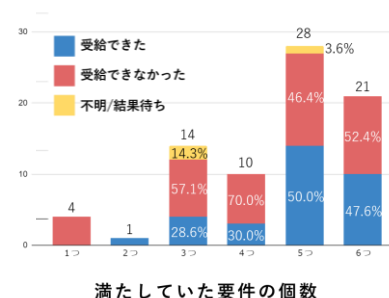
## ⑦学生支援緊急給付金の要件

申請には6つの要件が設定されていました。

- ① 親から多額の仕送りを受けていない
- ② 原則、自宅外で生活
- ③ 生活費・学費に占めるアルバイト収入の割合が高い
- ④ 家庭からの追加的支援が期待できない
- ⑤ コロナ感染症の影響でアルバイト収入が50%以上減少
- ⑥ 修学支援新制度、第一種奨学金などの既存制度の条件を満たす

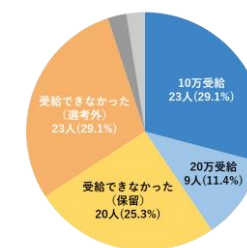
基本的には6つの要件全てを満たしている学生が申請の対象となっている。しかし、文科省「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』申請の手引きに“最終的には大学等が学生の自己申告状況に基づいて実情を勘案して、総合的に判断する”と記述があり、すべての要件を満たしていなくても申請が可能であることが示されている。だが要件が記述されているページには記載されておらず、要件を満たしていなくても申請できるということを知らない学生もいる。

## ⑧要件に関して



6つ全ての要件を満たしている学生のうち、52.4%の学生は受給できなかったと回答。一方、要件を2つ満たしていた学生は受給できたと回答しており、矛盾が生じている。学校により申請数に大きく差があったことが1つの原因として考えられる。

## ⑨受給状況



受給金額に関して  
住民税非課税世帯の学生 20万円  
上記以外の学生 10万円

保留：1次では受給できないが2次では受給の可能性あり。  
選考外：1次、2次共に国には推薦されない。

受給できた学生は40.5%

“助けてくれてありがとうございます”  
“非常に助かり、政府に非常に感謝している”  
“オンライン授業のためWi-Fi環境などを整えるのも自腹。授業料、設備費が返ってこないと納得いかない。”

受給できなかった学生は54.4%

“学校から推薦すらされなかった。”  
“なぜ自分より金銭的に余裕がある人が受給できていて自分は受給できないのかわからない。”

2020年7月5日(日)のしんぶん赤旗の記事により、一次募集の枠30万人に対し国に推薦されたのは24万人に留まり、多くの学生が受給できない中、枠が余るという状況が発生していることがわかっている。

## ⑨二次募集に関して

一次で書類の準備が間に合わず申請ができなかった学生などが新たに申請をした。しかし、“1次のときに条件に当てはまっていなくてももらえなかった人がいたということを知り、私よりももらうべき人がいると思ったから”という声もあり、申請したくても遠慮をしまいう学生の存在がある。

～まとめ～

全ての要件を満たしていても受給できない学生、2,3個要件を満たしていたら受給できた学生がいたことから、学校ごとに申請者数に差があったことや、学校から国への推薦基準が曖昧であることがわかった。また、施設が十分に使えないことやオンライン授業への移行により給付金の支給ではなく学費減額を求める声が多く見られた。日本で学ぶ全ての学生が対等に補償される制度を求める。